

「真に豊かな人生とは？」

～ブータンの国に学ぶ～

「なぜなら、あなたがたはしだいに私たちの主イエス・キリストの恵み（彼のいつくしみ、彼の恵み深い情け、価なしに与えてくださる彼の愛顧と靈的祝福）を、親しく知る（ますます強く《はつきりと》認める）ようになってきているからです。〔その恵みゆえに〕、彼は〔非常に〕富んでおられたのに、あなたがたのために〔非常に〕貧しくなられたのです。それは、彼の貧しさによって、あなたがたが富む者とされる（豊かに与えられる）ためです。」

コリント人への第二の手紙8章9節〔詳訳聖書〕

本日の午後はバーベキューです。お互いの交わりと、お一人お一人が健康であるようにと願って開催します。

「真に豊かな人生とは？」ということ考えた時に、以前に話題になったブータンの国の事を思いました。ブータンは国連が発表する「世界幸福度報告書」(World Happiness Report)では日本よりも下になっていますが、自身が提唱するGNH(国民総幸福量)がとても高い国(2016年では世界第8位)。GNHとは、1.心理的幸福、2.健康、3.教育、4.文化、5.環境、6.コミュニティー、7.良い統治、8.生活水準、9.自分の時間の使い方、の9つの構成要素があるということ。そんなブータンにもしっかりと社会問題はあります。・物価の高騰、・若者の失業、・都会と田舎の経済格差、・犯罪率の増加、・平均寿命が低い、・字が読めない人が多いなど。しかし、彼らの持っている仏教による考え方から心の豊かさが作られていると言われます。彼らの仏教は日本の大乘仏教とは違って、お釈迦様の本来の教えを大切にしている小乗仏教ですが、例えば、1日3食食べられて、寝るところがあり、体を十分温める衣類があれば、それ以上望むものは無いという考え方。また、彼らは毎日平均一時間半のお祈りをする。それは、慈悲の瞑想と言うものですが、「自分や大切な人、嫌いな人、そして全ての人、ひいては全ての生き物の幸せを願う」というものです。キリスト教で言う、「とりなしの祈り」に似ているような気がします。彼らはそれを毎日行っています。それは宗教は違えども、見習わなければならぬことです。また、未だに超極貧のブータンですが、だからこそ、豊かな心を持つことができているということも事実であるなあと思いました。今の資本主義を推し進めてきたのが、私たちと同じクリスチャン信仰を持った国と言われる、西欧諸国。直接的な貧困の問題を解消するために、まず、実質的に豊かになるということを求めてきました。しかし、キリスト教という豊かな心を持った国々は良かったのですが、日本はその中身は継承せず、その外側だけを継承して、極端にアンバランスに成長してしまった国なのかもしれません。今、この国は岐路に立っていると思います。その心をしっかりと持つためにどうしたらいいのか？一人一人の選択にかかっている部分があります。信仰は大切ですね。